

市政トピックス

子育て環境をより良くするために —シンポジウム開催で熱論交わす

昨年11月に設立した仙台子ども財団の設立記念シンポジウムが3月21日、日立システムズホール仙台で開かれ、子育て支援に取り組む市民など310人が参加しました。第一部では、財団の理事長・湯浅誠氏による基調講演が行われ、湯浅氏は、子どもたちからの声を反映させる機会の創出、市内企業



▲左から佐々木氏、菅野氏、都市長、湯浅氏

の男性育休取得の後押しなど、本年度に財団が取り組む内容を発表。「子どもを支える人」、「支える人を支える人」の輪を共に少しずつ着実に広げていきましょう」と力を込めました。

第二部では、同財団理事の菅野澄枝氏・佐々木綾子氏、都市長がステージに加わり、「子育てが楽しいまち・仙台の実現に向けて」と題したパネルディスカッションが開催されました。仙台市地域防災リーダーとしても活躍する菅野氏は、「自分の子だけ良くてダメで、地域や社会が良くなならないと。そのために大人も成長する必要がある」、「NPO法人の代表理事として困難を抱えた家庭や子どもたちのサポートも行う佐々木氏は、「子どもと大人が対話を重ねながら、人とのつながりを深める社会を目指していきたい」とそれぞれ思いを話しました。都市長も「仙台市では市民協働のまちづくりを長年続けてきた。子どもを真ん中に据えた、子育てが楽しいまち・仙台の実現に向け、財団を応援してほしい」と参加者呼び掛けました。

市政トピックス

市政トピックス

思いを込めて丁寧に —海岸公園で植樹会

市では、東日本大震災の津波で大きな被害を受けた東部地域において、海岸防災林をはじめとした緑の再生を進める「ふるさとの杜再生プロジェクト」を市民協働で実施しています。

海岸防災林の苗木作りの拠点として、海岸公園センターハウス南側に整備した荒浜ほ場の完成を記念し、3月17日に植樹会を開催しました。当日は晴天にも恵まれ、家族連れを中心に約50人が参加。ケヤキやオシマザクラなど、約300本の苗木の植樹とネモフィラ等の種まきを楽しそうに行う子どもたちの姿が見られました。東部地域にかつての緑豊かな景観を取り戻し、多くの方が集う場となるよう、取り組みを続けていきます。



▲ネモフィラは5月下旬頃に開花する予定です。ぜひお越しください

市政トピックス

七北田公園でポケモン探しの冒険へ

スマートフォン向けゲームアプリ「ポケモンGO」のイベント「Pokémon GO Fest 2024・仙台」が、5月30日から6月2日までの4日間、七北田公園をメイン会場に開催されます。位置情報を利用して、現実世界を舞台にポケモンをゲットする同ゲーム。イベントは毎年世界各地で開催されており、今年も本市のほか、スペインのマドリッド、アメリカのニューヨークで行われます。期間中は、公園内を探索しながら、特別なポケモンを捕まえたリ(チケット保有者のみ)、限定のフォトスポットで記念撮影したりして楽しむことができます。

3月7日、アプリを提供するナイアンテック社と株式会社ポケモン、本市による共同会見が開かれ、都市長は「ゲームを通じて、仙台の歴史や自然、グルメも堪能してほしい」と呼び掛けました。

国内外の多くの方に、ポケモンのみならず、杜の都の多彩な魅力をゲットしてもらえよう、受け入れ準備を着実に進めていきます。

イベントの詳細は、ホームページ <https://gofest.pokemon.go.jp/> をご覧ください

市政トピックス

脱炭素化本格始動— 官民連携組織を設立 しました

昨年11月に国から選定を受けた「脱炭素先行地域」の取り組みを推進するため、「仙台市脱炭素先行地域プロジェクトパートナーズ」を設立しました。本市のほか、民間企業や地域団体、大学など、計24の会員で構成され、2030年度までに、家庭や事業所等での電力消費に伴う二酸化炭素排出量実質ゼロの実現を目指します。

3月21日に開催された設立総会では、定禅寺通エリアにおける業務ビルの脱炭素リノベーションや、泉パークタウンでの既存住宅への太陽光・蓄電池の導入など、エリアごとの具体的な取り組み内容について確認しました。会員からは「今後、多くの課題が見えてくると思うが、会員の皆さまと連携して乗り越えたい」、「脱炭素の必要性を意識してもらえようような働きかけを行い、より魅力的なエリアにしていきたい」といった、力強い意見が出されました。

今後は、脱炭素先行地域の計画実現に向け、会員の皆さまと連携を図りながら、全国に展開できる脱炭素化モデルの創出に取り組んでいきます。

市政トピックス

いざ、出陣—るーぷる仙台の新車両が都を駆け巡る

市中心部の観光スポットを巡る循環バス「るーぷる仙台」に新たなデザインをあしらった車両を導入し、運行を開始しました。

新車両のデザインには、仙台デザイン&テクノロジー専門学校が学生によるアイデアをもとに、市の花「ハギ」と「ちよう結びの水引」を採用。ハギには、仙台らしさを感じてもらえるように、ちよう結びの水引には、観光客にすてきな旅をプレゼントしたいという思いが込められています。

3月21日に行われた出発式には、都市長と伊達武将隊の伊達政宗公が出席。政宗公の「いざ、出陣じや!」の掛け声とともに、観光客の皆さんはワクワクした様子で第一便に乗り込んでいきました。



▲出発式の様子。車体の正面や側面にハギの模様が描かれています

▶ドアにはちよう結びの水引

3.11 震災文庫を 読む

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよりすぐりの本を「紹介します」。

「想像ラジオ」



いとうせいこう / 著
河出書房新社 刊

「想像力の中」だけで聴けるラジオを、あの日の深夜2時46分から放送し始めたDJアークラジオ番組形式で進んでいく、生者と死者の関係を描いた物語。発売した2013年に話題となっていました。

が、当時の私にはまだ読む勇気がなく、震災から10年以上がたった最近、ようやく手に取ることができました。被災地にながら大きな被害がないエリアに暮らしていたため、どことなく感じていた後ろめたさ。読後はそんな私でも、震災について話したり、考えたりしたいんだ、と胸のつかえがとれたような気がしました。

「表現者たちの「3・11」震災後の芸術を語る」



河北新報社編集局 / 編
河北新報出版センター 刊

東北にゆかりのある美術家、詩人、音楽家、作家など、35人の芸術家へのインタビュー集。震災直後、生活に直接的な関わりがない分野とも言える芸術を、生業とする人たちは、何を想い、何を感じたのか。感受性が豊かな彼らの中には、一時的に表現の手を止めてしまった人もいました。

が、芸術は「心の復興」に欠かせない存在でありました。読んだ後に彼らの作品に触れる機会があると、その背景をより深く知ることが出来ます。震災後の芸術を知るための手引書のような一冊です。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585